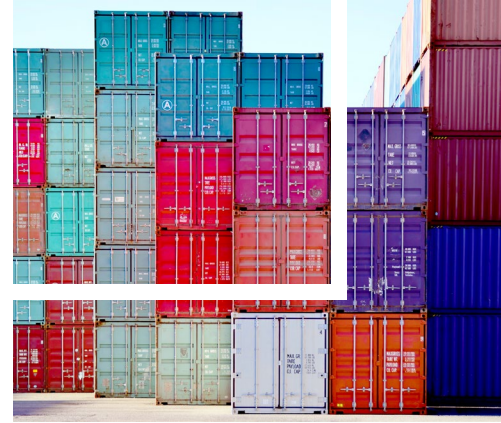


# Daily Macro Economic Insights

## 企業物価指数(2024年6月速報) — 輸入物価の伸びがさらに加速 —



PwC Intelligence チーフエコノミスト、上席執行役員 片岡 剛士  
シニアエコノミスト 伊藤 篤

### 国内企業物価指数は前月比+0.2%、前年比+2.9%、増勢は維持

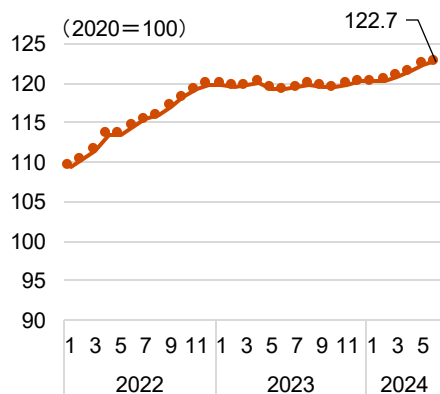
日本銀行から6月の企業物価指数が公表された。結果をみると、国内企業物価指数が前月比+0.2%(前年比+2.9%)、輸出物価指数は、円ベースで前月比+0.8%(前年比+10.4%)、契約通貨ベースで同+0.0%、輸入物価指数は、円ベースで前月比+0.5%(前年比+9.5%)、契約通貨ベースで同-0.3%となった。輸入物価指数の前年比は円ベースで伸びを強めている。国内企業物価指数につき前月比で大きく上昇した品目をみると、電気・都市ガス・水道(寄与度+0.09%ポイント)、石油・石炭製品(同+0.06%ポイント)、金属製品(同+0.02%ポイント)といった品目の伸びが大きい。図表2は企業物価指数の推移をみているが、今年に入り水準が切りあがり、6月の伸びはやや弱まっている。企業物価指数と消費者物価指数との間に半年程度のラグがあると考え、消費者物価指数への下押し圧力は今年の夏場あたりまで続き、年末にかけて薄れていくだろう。輸出物価指数・輸入物価指数も前年比で伸びがじわじわと高まっていく公算大である。

図表1: 企業物価指数の概要

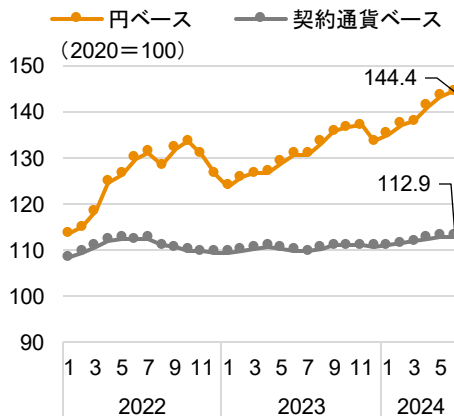
(単位: %)

		国内企業物価指数		輸出物価指数				輸入物価指数			
				円ベース		契約通貨ベース		円ベース		契約通貨ベース	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
2022年	12	0.6	10.6	-3.3	12.1	-0.2	1.3	-4.6	22.2	-0.7	7.5
2023年	1	0.0	9.5	-2.1	9.0	0.0	1.1	-4.4	17.0	-1.8	6.5
	2	-0.3	8.3	1.5	9.4	0.4	0.5	0.8	15.0	-0.6	3.6
	3	0.1	7.4	0.7	7.1	0.3	-0.4	-1.5	9.4	-2.1	0.1
	4	0.3	5.8	0.2	1.8	0.4	-1.2	-3.0	-3.7	-2.8	-7.4
	5	-0.7	5.1	1.7	2.0	-0.3	-1.9	2.1	-5.4	-0.2	-9.6
	6	-0.1	4.1	1.4	0.7	-0.5	-2.2	-1.7	-11.7	-3.5	-14.6
	7	0.3	3.6	0.0	-0.4	-0.1	-2.4	-0.6	-14.7	-0.7	-16.3
	8	0.3	3.4	1.9	3.9	0.5	-0.6	1.3	-11.7	-0.5	-15.8
	9	-0.2	2.2	1.9	2.9	0.7	0.5	2.2	-14.3	0.6	-15.8
	10	-0.1	1.1	0.7	2.4	0.0	1.0	2.6	-11.8	1.6	-12.6
	11	0.3	0.5	0.3	4.8	-0.1	1.1	0.5	-6.4	0.1	-10.1
	12	0.3	0.3	-2.6	5.5	-0.2	1.1	-3.2	-5.0	-0.2	-9.6
2024年	1	0.0	0.3	1.3	9.1	0.2	1.3	0.4	-0.2	-0.9	-8.8
	2	0.2	0.7	1.5	9.1	0.4	1.3	1.3	0.2	-0.2	-8.4
	3	0.3	0.9	0.6	8.9	0.4	1.5	-0.2	1.6	-0.2	-6.7
	4	0.6	1.2	2.2	11.2	0.6	1.7	2.1	6.9	0.2	-3.8
	5	0.7	2.6	1.6	11.1	0.3	2.3	2.3	7.1	0.8	-2.9
	6	0.2	2.9	0.8	10.4	0.0	2.7	0.5	9.5	-0.3	0.3

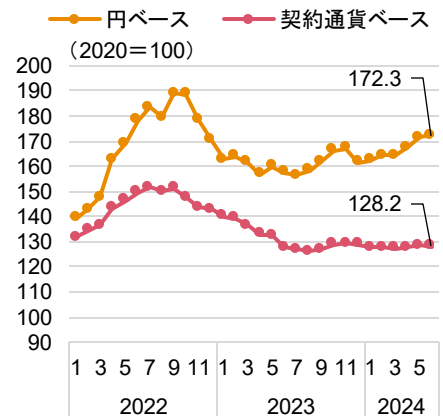
図表2: 国内企業物価指数の推移



図表3: 輸出物価指数の推移



図表4: 輸入物価指数の推移

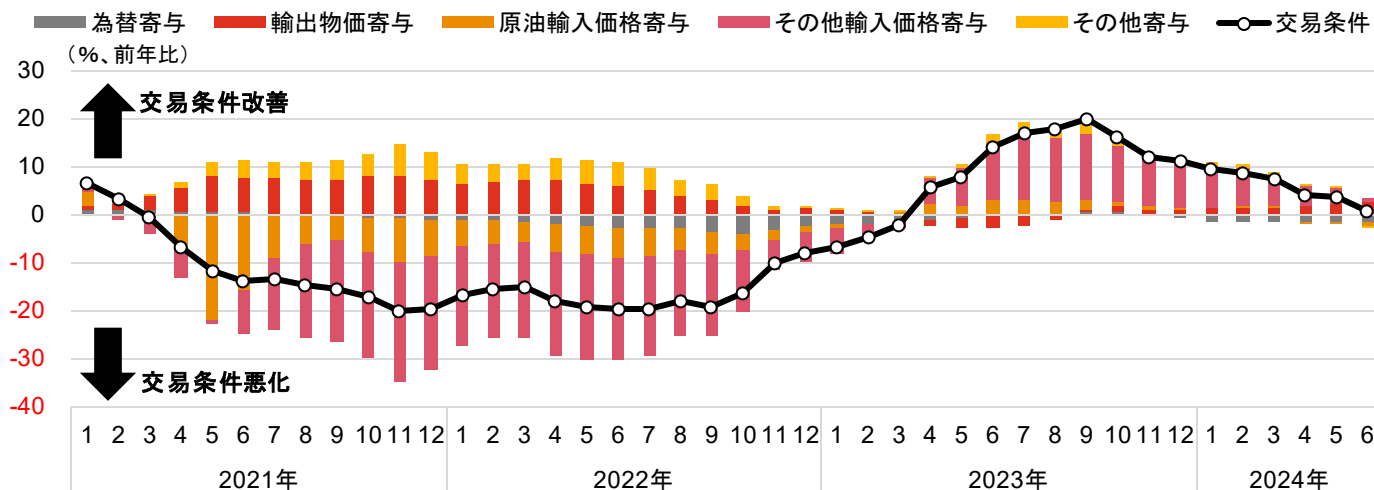


出所: 日本銀行「企業物価指数」より筆者作成。

## 交易条件は前年比+0.9%の改善、7月の交易条件は前年比で悪化の可能性も

図表5は交易条件(輸出物価指数÷輸入物価指数)の前年比を折れ線で、交易条件に影響する輸出物価指数、輸入物価指数(いずれも契約通貨建て)、さらに為替レートの影響を寄与度の形で示している。交易条件は2021年4月以降、前年比で悪化を続けていたが、2023年4月に前年比プラスとなり、2024年6月は引き続き前年比+0.9%と拡大を続けている。6月の交易条件変化の内訳を見ると、その他輸入価格の寄与が0.5%ポイント、原油輸入価格の寄与が-0.9%ポイント(プラスは輸入価格の低下を示す。いずれも逆符号)と、その他輸入価格の減少が交易条件の前年比増に寄与している。なお、円安が輸出入物価に与える影響をみた為替の寄与は-1.6%ポイントと5月の-1.5%ポイントからわずかに拡大し、交易条件を悪化させる方向に寄与したが、今のところ2022年と比べ影響はマイルドなものに留まっている。なお、輸入物価指数前年比は契約通貨建てでみると前年比+0.3%と増加に転じたが、円建てでは同+9.5%と2023年3月以来の伸びとなっている。差分の9.2%が円安による輸入物価の押し上げ分ということであり、交易条件の改善は続くとはいえ、円安による輸入物価の押し上げインパクトは引き続き大きいことには留意しておくべきだろう。なお、7月には交易条件は改善から悪化に転じる可能性もある。

図表5: 交易条件変化(前年比)と寄与度の推移



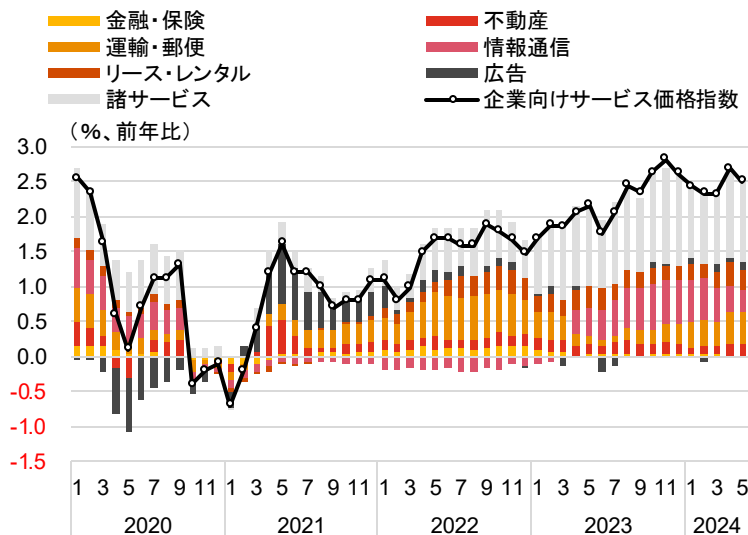
出所: 日本銀行「企業物価指数」より筆者作成。為替寄与は交易条件指数(円ベース)前年比と交易条件指数(契約通貨ベース)前年比の差として計算している。原油輸入価格寄与は原油輸入価格(契約通貨ベース)前年比に原油の輸入品目全体に対するウエイトを乗じて計算した値。その他寄与は為替要因と輸出入物価要因の積として定義される寄与。

## 5月企業向けサービス価格は前年比+2.5%と高めの伸びを維持

企業向けサービス価格指数は、企業間で取引されるサービスについての物価指数である。これは需給ギャップとの相関が高く、景気変動に対し敏感に動く傾向が強いことが知られている。図表6は企業向けサービス価格指数の前年比を折れ線グラフで、企業向けサービス価格指数を構成する各サービスの寄与度を棒グラフで示したものである。5月の総平均は前年比+2.5%となり、前年比+2.8%となった先月からややマイルドな伸びとなった。

内訳をみていくと、先月の押し上げに寄与した運輸・郵便の伸びがやや低下したのに加え、情報通信、リース・レンタルの伸びも弱まっている。諸サービスのうち、自動車整備・機械修理や技術サービスの伸びもやや弱まった。企業向けサービス価格の伸びがさらに加速するか注目である。

図表6: 企業向けサービス価格前年比と各サービスの寄与度の推移



出所: 日本銀行「企業向けサービス価格指数」より筆者作成。

片岡 剛士

チーフエコノミスト、上席執行役員  
PwC Intelligence  
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤

シニアエコノミスト  
PwC Intelligence  
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク  
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>